



# 平成26年 岐阜県鉱工業指数 (年報)

【平成22年基準】

## 1 概況

生産指数	97.0	前年比0.2%の低下
出荷指数	97.2	前年比1.0%の低下
在庫指数	124.6	前年比9.5%の上昇

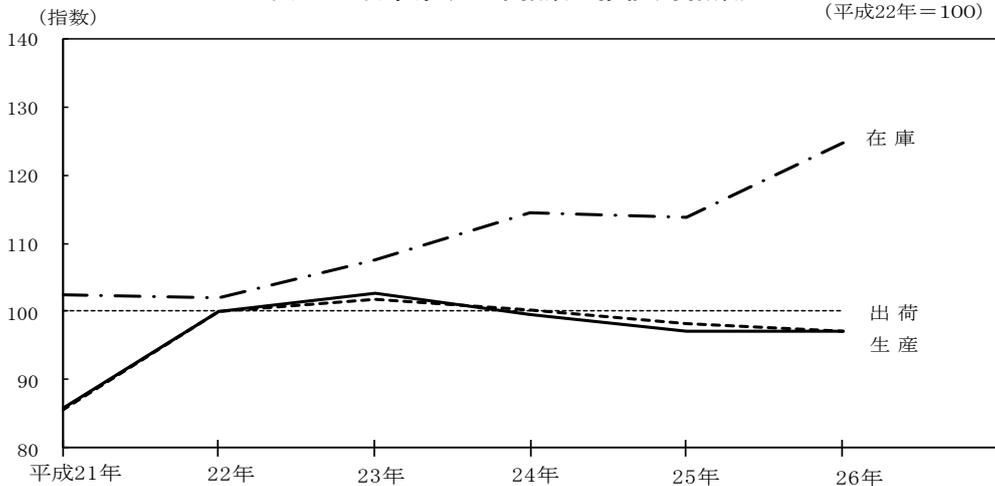
平成26年1年間の生産指数は、電気機械工業、窯業・土石製品工業等が上昇したものの、化学工業、輸送機械工業等が低下したため、前年比0.2%の低下となった。

また、出荷指数は、化学工業、はん用・生産用・業務用機械器具工業等が低下したため1.0%の低下となり、在庫指数は、金属製品工業、繊維工業等が上昇したため9.5%の上昇となった。(図-1)

(平成22年=100)

区分	生産		出荷		在庫	
	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)
平成21年	85.8	△ 24.4	85.6	△ 25.4	102.5	△ 20.9
22	100.0	16.6	100.0	16.8	102.1	△ 0.4
23	102.6	2.6	101.8	1.8	107.5	5.3
24	99.5	△ 3.0	100.3	△ 1.5	114.4	6.4
25	97.2	△ 2.3	98.2	△ 2.1	113.8	△ 0.5
26	97.0	△ 0.2	97.2	△ 1.0	124.6	9.5

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)



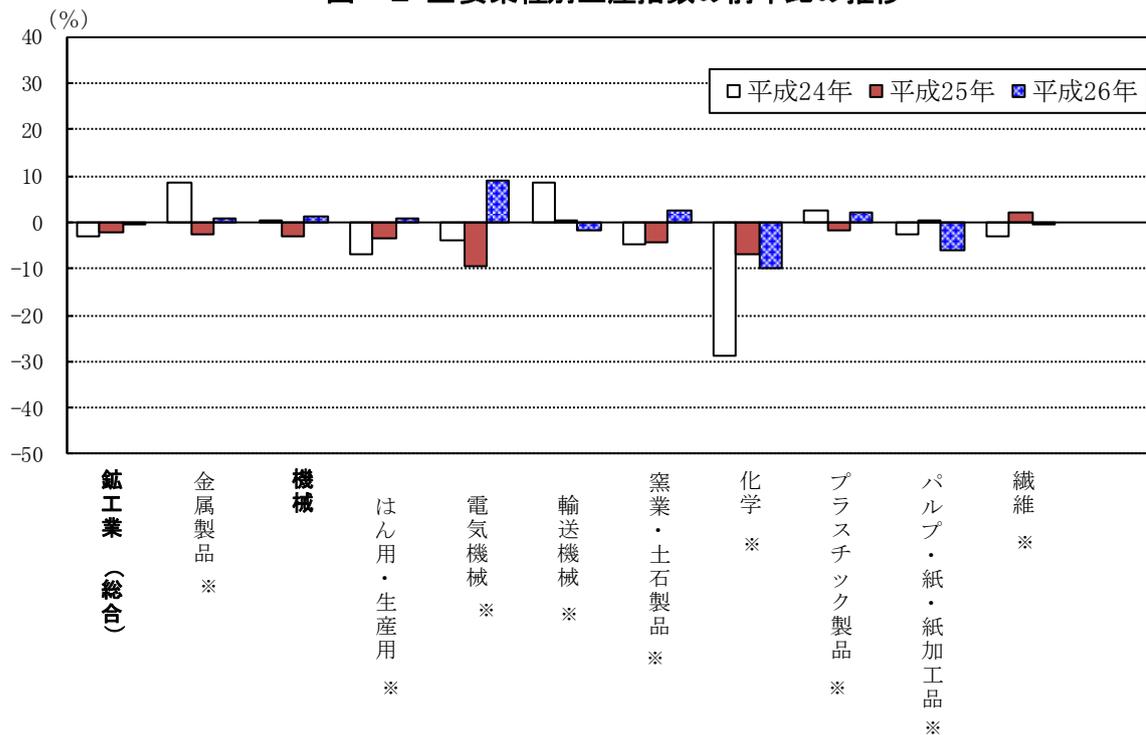
注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

## 2 主要業種別生産指数の前年比

主要9業種<sup>※</sup>の生産指数を業種別に前年と比べると、上昇したのは、電気機械工業（前年比8.9%）、窯業・土石製品工業（同2.4%）、プラスチック製品工業（同2.0%）、金属製品工業（同0.8%）、機械工業（同1.1%）の5業種となった。

一方、低下したのは、化学工業（同△10.2%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同△6.2%）、輸送機械工業（同△2.0%）、繊維工業（同△0.5%）の4業種となった。（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



## 3 全国、中部との生産指数の比較

平成26年の全国における生産指数は、前年比2.1%の上昇であった。  
また、中部においては5.0%の上昇であった。

(平成22年=100)

区分	岐阜県		全国		中部(※)	
	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)
平成21年	85.8	△24.4	86.5	△21.9	81.7	△26.3
22	100.0	16.6	100.0	15.6	100.0	22.4
23	102.6	2.6	97.2	△2.8	96.8	△3.2
24	99.5	△3.0	97.8	0.6	104.6	8.1
25	97.2	△2.3	97.0	△0.8	106.5	1.8
26	97.0	△0.2	99.0	2.1	111.8	5.0

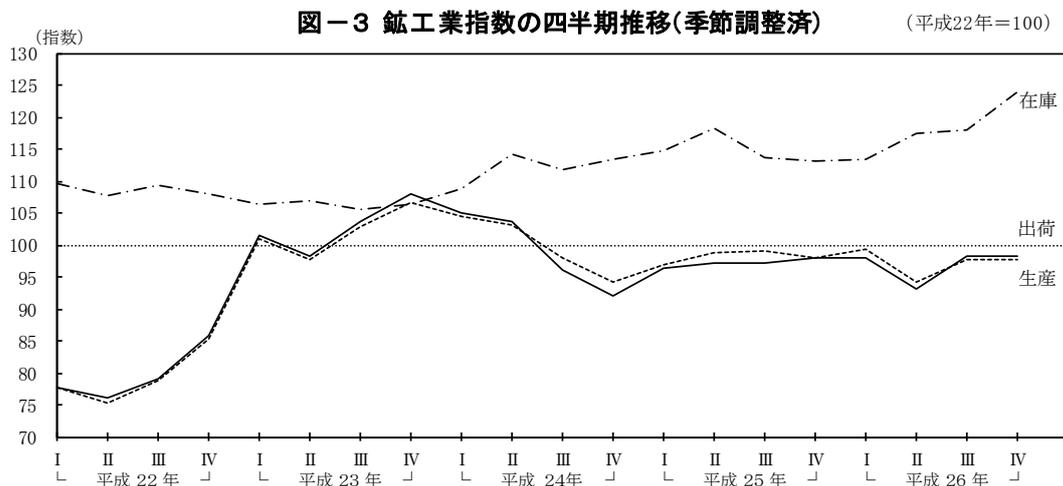
※「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

※資料：経済産業省、中部経済産業局

## <平成26年 岐阜県鉱工業指数の詳細について>

### 1 鉱工業指数の四半期推移

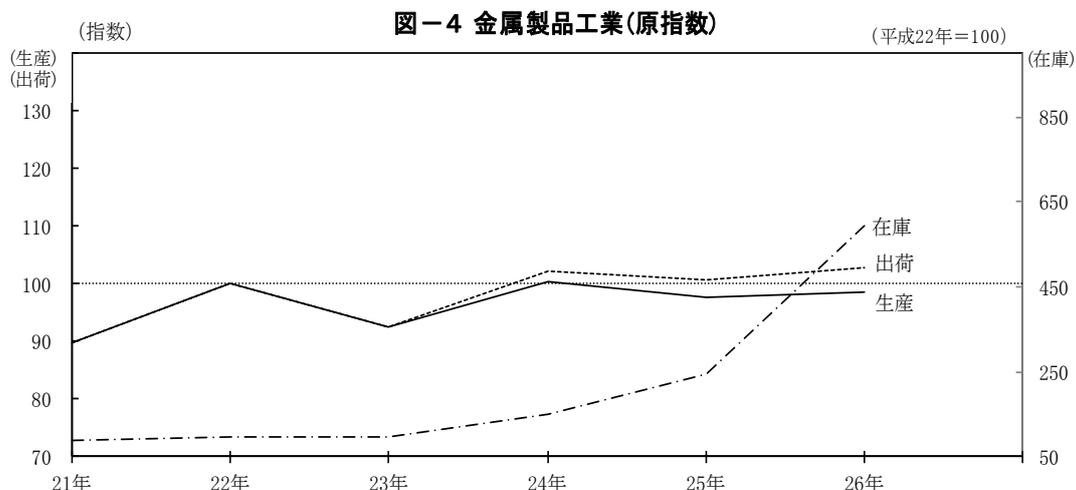
平成26年の生産指数を四半期ごとにみると、第1四半期は前期比0.1%の低下、第2期は4.8%の低下、第3期は5.5%の上昇、第4期は0.1%の上昇となった。出荷指数も同様の動きとなった。また、在庫指数は全ての四半期において前期比より上昇となった。(図-3、表-2)



### 2 主要業種別指数の動向

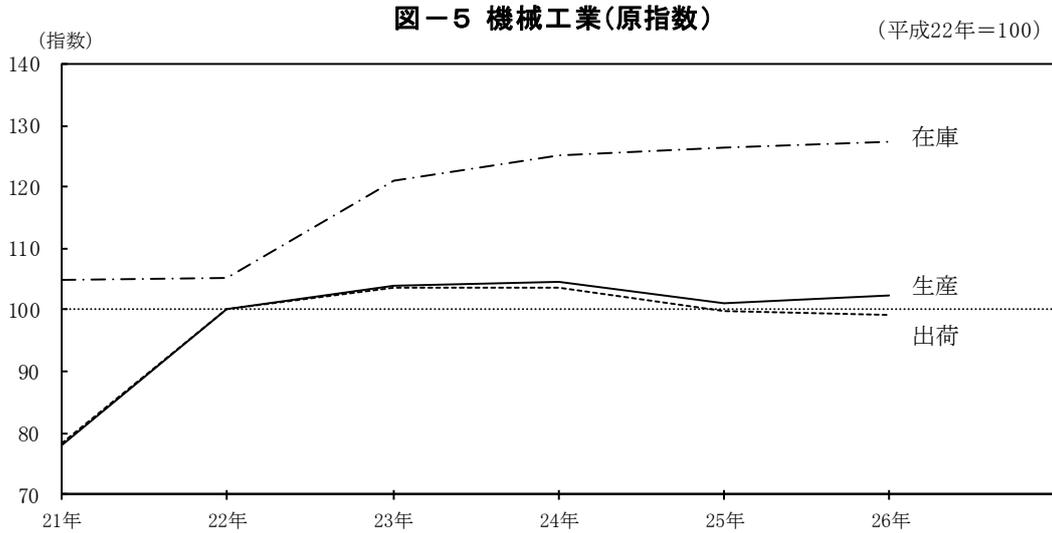
#### (1) 金属製品工業

- ・生産指数は、ばね、スチール又は替刃等が減少したものの、ボルト・ナット、スチール又はステンレスシャッター等が増加したため、前年比0.8%の上昇となった。
- ・出荷指数は、アルミサッシ、ボルト・ナット等が増加したため、前年比2.3%の上昇となった。
- ・在庫指数は、アルミサッシ、ボルト・ナット等が増加したため、前年比143.0%の上昇となった。(図-4、表-1)



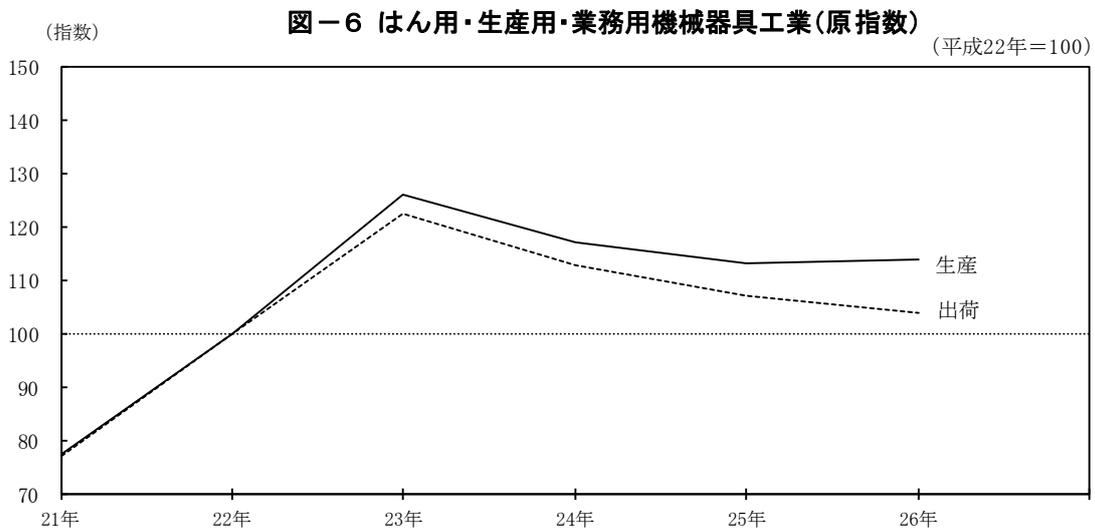
## (2) 機械工業

- ・生産指数は、輸送機械工業が低下したものの、電気機械工業、はん用・生産用・業務用機械器具工業が増加したため、前年比1.1%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、前年比0.6%の低下となった。
  - ・在庫指数は、前年比0.6%の上昇となった。
- (図-5、表-1)



### (2) -ア はん用・生産用・業務用機械器具工業

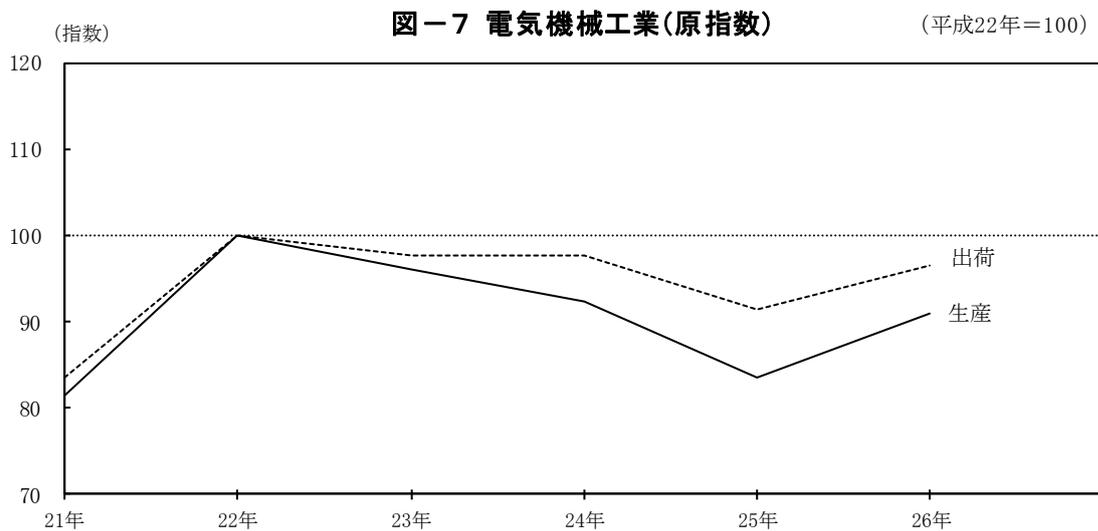
- ・生産指数は、複写機部分品、超硬工具（超硬チップを除く）等が減少したものの、ショベル系掘削機（0.2m<sup>3</sup>未満）、旋盤等が増加したため、前年比0.5%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、複写機部分品、油圧機器等が減少したため、前年比3.0%の低下となった。
- (図-6、表-1)



## (2) -イ 電気機械工業

- ・生産指数は、電子回路基板、開閉制御装置等が増加したため、前年比8.9%の上昇となった。
- ・出荷指数も電子回路基板、開閉制御装置等が増加したため、前年比5.5%の上昇となった。

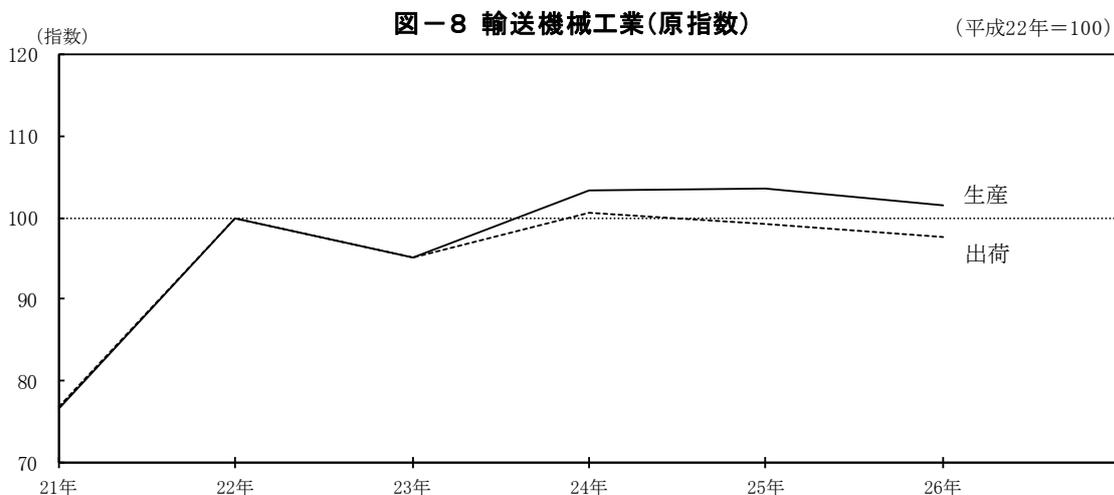
(図-7、表-1)



## (2) -ウ 輸送機械工業

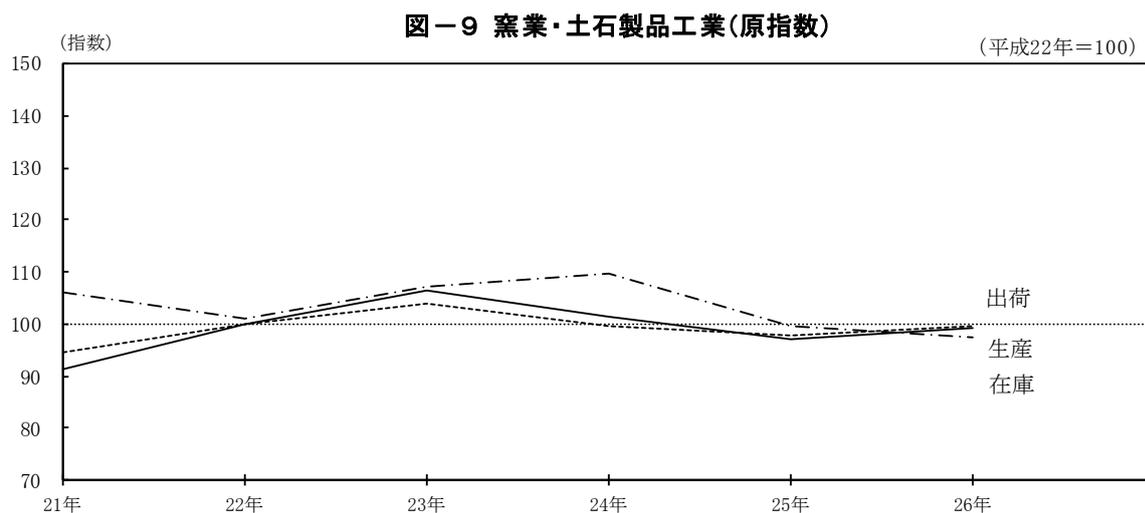
- ・生産指数は、機関部品、手動式車いす等が増加したものの、乗用車ボデー、シャシー及び車体部品等が減少したため、前年比2.0%の低下となった。
- ・出荷指数は、乗用車ボデー、シャシー及び車体部品等が減少したため、前年比5.4%の低下となった。

(図-8、表-1)



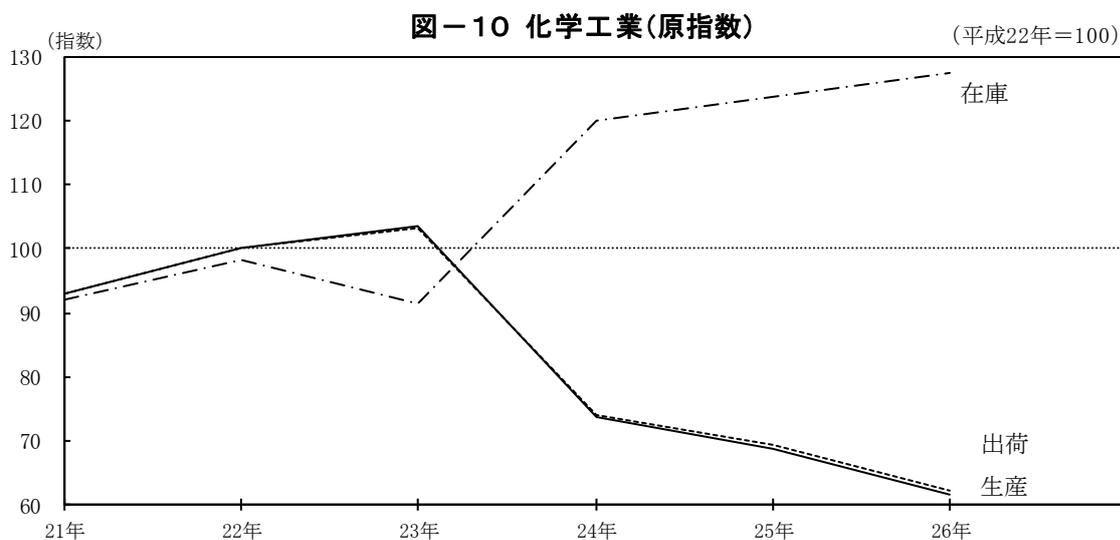
### (3) 窯業・土石製品工業

- ・生産指数は、遠心力鉄筋コンクリート製品、基盤（白基盤）等が減少したものの、触媒担体・セラミックフィルタ、陶磁器製台所用食卓用品等が増加したため、前年比2.4%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、触媒担体・セラミックフィルタ、生コンクリート等が増加したため、前年比1.8%の上昇となった。
  - ・在庫指数は、道路用コンクリート製品、遠心力鉄筋コンクリート製品等が減少したため、前年比2.3%の低下となった。
- (図-9、表-1)



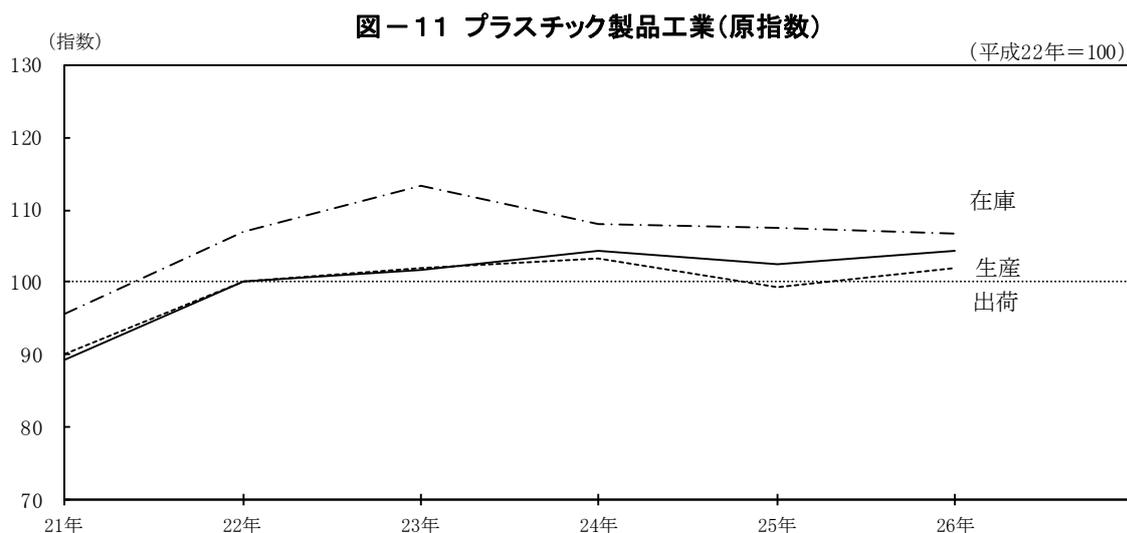
### (4) 化学工業

- ・生産指数は、触媒（自動車排気ガス浄化用）、メラミン樹脂が増加したものの、医薬品、活性炭が減少したため、前年比10.2%の低下となった。
  - ・出荷指数は、医薬品、活性炭が減少したため、前年比10.1%の低下となった。
  - ・在庫指数は、活性炭、メラミン樹脂が増加したため、前年比3.0%の上昇となった。
- (図-10、表-1)



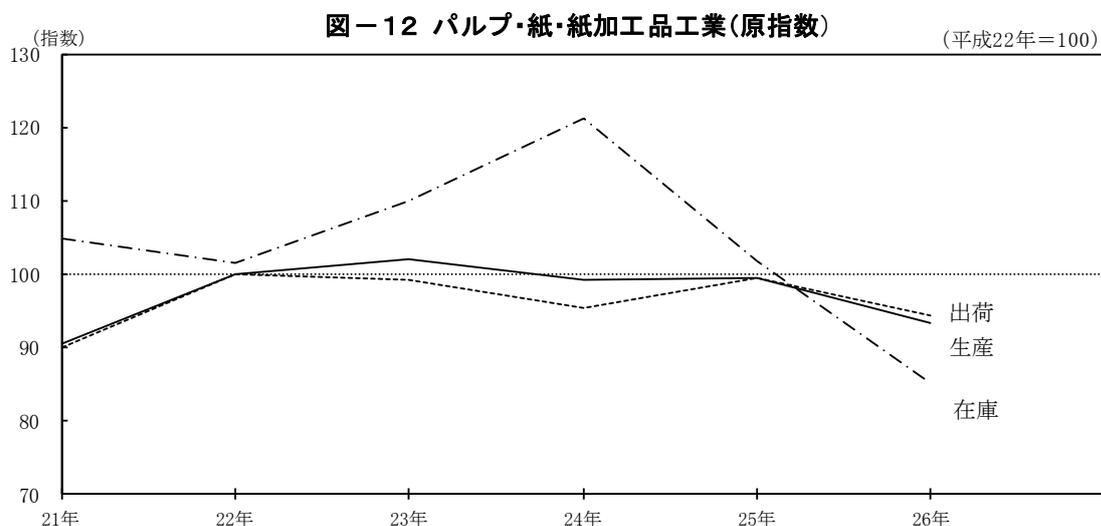
## (5) プラスチック製品工業

- ・生産指数は、発泡プラスチック製品、プラスチック製機械器具部品等が減少したものの、プラスチック製容器、プラスチック製フィルム等が増加したため、前年比2.0%の上昇となった。
  - ・出荷指数は、プラスチック製容器、プラスチック製フィルム等が増加したため、前年比2.6%の上昇となった。
  - ・在庫指数は、プラスチック製シート、プラスチック製フィルムが減少したため、前年比0.8%の低下となった。
- (図-11、表-1)



## (6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・生産指数は、衛生用紙等が増加したものの、包装用紙、製紙パルプが減少したため、前年比6.2%低下となった。
  - ・出荷指数は、包装用紙、段ボール等が減少したため、前年比5.2%の低下となった。
  - ・在庫指数は、包装用紙、製紙パルプ等が減少したため、前年比16.5%の低下となった。
- (図-12、表-1)



## (7) 繊維工業

- ・生産指数は、不織布、合成繊維織物染色整理等が増加したものの、敷物タフテッドカーペット、毛糸等が減少したため、前年比0.5%の低下となった。
- ・出荷指数は、毛糸、その他再生・半合成繊維糸等が減少したため、前年比1.4%の低下となった。
- ・在庫指数は、毛織物、不織布等が増加したため、前年比12.7%の上昇となった。

(図-13、表-1)

